

実践活動Ⅱ

(情報収集・訪問調査・実験試行等、実践活動Ⅲに向けて自主活動)

日時：平成24年10月8日(月) 10:00～15:00

講師：自主活動(あいち海上の森大学コーディネーター)

概況



自主活動～足助きこり塾/森トピアにて

9:30～12:00

<ガイダンス>

地元材で伝統工法により造られた小屋「生闘学舎」前にて、講師自己紹介と足助きこり塾の概要説明を受ける。

台風等による土砂崩壊等の自然災害は人工林の手入れ不足に依るところが大きいのではないかと、森林を整備していくためにはどのようにしていくのが良いのだろうか...伊那市のKOA森林塾で学んだ仲間が集まり、2001年12月に発足した。旧足助町の林業家鈴木氏の山林を提供してもらい「森トピア」と名付け活動の拠点としている。山の現状を街の人に伝えると共に、単一人工林から針広混交林への転換を進めている。

<森の健康診断>

現在日本全国で実施されている「森の健康診断」についてマニュアルと調査票に基づき説明を受け、「アマチュアの森」において一部簡略化して診断を実施。

13:00～15:30

<伐採実習>

伐倒の手順として受け口・追い口の決め方、作り方、安全確保のためロープで立木

を支持しておくことの重要性を学び周到な準備をした後、2班に分かれ、選木した不良木を実際に手鋸で伐倒、枝払い、玉伐りを行い、スリングを巻き人力で作業道脇まで搬出した。まだ水が上がっているため樹皮が剥けやすいが、この時点で剥いてしまうと、砂がついて後ほどの製材に支障があることなども学んだ。

<学びと遊びの心>

「生闘学舎」への道すがら、針広混交林の豊かさを再認識、また小学生等が学びに来た場合の楽しみともなる、大木にかけた大ブランコを見学。

<製材>

製材機(帯鋸盤)にて、先ほど伐倒した材の製材を実演してもらう。

<振り返り>

受講生一人一人から本日の感想を述べてもらう。有意義な1日であったこと、森を知ること、間伐への意欲を喚起されたこと等、積極的な意見が多く聞かれた。